

2011年8月18日

株式会社 富士経済  
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町  
 2-5 F・Kビル  
 TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165  
 URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>  
<https://www.fuji-keizai.co.jp/>  
 広報部 03-3664-5697

## 国内医療用医薬品市場 第6回調査結果（関節・骨疾患治療剤、泌尿器疾患治療剤など） と 全体市場を総括分析

### 第6回調査結果

生物学的製剤が牽引。抗リウマチ剤は2019年に2010年比2倍の3,002億円

### 総括分析結果

国内の医療用医薬品市場は2018年に9兆円超

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811）は、医療用医薬品の国内市場を2010年1月から6回に分け調査を行っている。その最終となる第6回調査を2011年4月から7月にかけて行った。その結果を報告書「2011 医療用医薬品データブック No.6」にまとめた。

この報告書では、第6回調査として関節・骨疾患治療剤、女性疾患治療剤、泌尿器疾患治療剤、腎疾患治療剤、痔疾患治療剤、ヒト成長ホルモン剤といった6薬効領域の市場を調査・分析し、今後を予測した。そして最終回となる今回は、第1回から第6回までの調査結果を総括分析した。

### <調査結果の概要>

#### 1. 主な薬効領域別市場

薬効領域	2010年	前年比	2019年予測	2010年比
関節・骨疾患治療剤	4,996億円	107.3%	8,012億円	160.4%
抗リウマチ剤	1,462億円	127.2%	3,002億円	205.3%
女性疾患治療剤	487億円	111.4%	673億円	138.2%
泌尿器疾患治療剤	1,506億円	101.2%	2,375億円	157.7%
過活動膀胱・神経因性膀胱治療剤	525億円	107.1%	1,100億円	209.5%
腎疾患治療剤	1,095億円	110.4%	1,530億円	139.7%

抗リウマチ剤は関節・骨疾患治療剤、過活動膀胱・神経因性膀胱治療剤は泌尿器疾患治療剤の内数。

#### 関節・骨疾患治療剤

市場は、高齢に伴う関節リウマチや骨粗鬆症、変形性関節症、腰痛など、治療患者数の増加と新製品の相次ぐ発売により拡大している。薬剤別にみると、抗リウマチ剤は生物学的製剤の躍進により、また骨粗鬆症治療剤は新製品の相次ぐ発売により、さらに変形性関節症治療剤は治療患者数の増加により拡大している。2010年12月に発売された変形性関節症治療剤「サイビスク」（帝人ファーマ）も重症例を中心に投与が進むとみられる。外用消炎鎮痛剤は2010年に薬価改定の影響で唯一縮小したが、2011年にはトップブランドの「モーラス」（久光製薬）が2月に筋肉痛、外傷後の腫脹・疼痛の適応拡大を受けており、処方の増加から拡大が見込まれる。

#### 注目市場

##### 抗リウマチ剤

抗リウマチ剤は、生物学的製剤、免疫抑制剤、その他免疫調整剤等に分類される。市場は特に生物学的製剤の実績増により拡大している。

市場の7割以上を占める生物学的製剤は、治療効果の高さから処方が増加しており拡大している。中でも200

9年7月に関節リウマチにおける関節の構造的損傷の防止と従来の用法・用量で効果不十分又は効果が減弱した場合に投与量の増量や投与間隔の短縮の適応拡大を受けた「レミケード」(田辺三菱製薬)の伸びが著しい。また、2010年9月に発売された「オレンシア」(プリストル・マイヤーズ)は、他の治療剤で効果不十分な場合と使用が限定されているものの、既存の生物学的製剤と全く異なる作用機序で効果を発揮すると期待されることから一定の実績を確保すると見込まれる。免疫抑制剤は、2011年に免疫抑制剤のメトトレキサート製剤の適量あたりの処方量の上限が引き上げられたことから、今後も拡大するとみられる。

#### 女性疾患治療剤

市場は、切迫早産治療剤・陣痛促進剤以外伸びており拡大している。薬剤別にみると、経口避妊薬は処方患者が増えており拡大している。更年期障害治療剤は高齢化に伴い潜在患者が増加していることから堅調に推移している。排卵障害治療剤は不妊症治療に対する政府の盛んな助成事業により治療患者が増え、拡大している。月経障害治療剤は新製品の相次ぐ発売や既存製品の適応拡大から拡大している。

#### 泌尿器疾患治療剤

市場は、ジェネリック医薬品の影響がありながらも、高齢化等に伴う治療患者の増加により拡大している。市場の6割程度を前立腺肥大症治療剤が占めるが、過活動膀胱・神経因性膀胱治療剤が順調に増加していることから、前立腺肥大症治療剤の構成比は年々縮小するとみられる。性機能改善剤は製品認知度と参入企業のプロモーション力も高いが、参入企業/製品が限られていることから大幅な拡大は期待し難い。

#### 注目市場

##### 過活動膀胱・神経因性膀胱治療剤

過活動膀胱の病因には加齢や生活習慣病が関連しており、近年潜在患者数は増加している。市場は、2006年に国内初の過活動膀胱治療剤「ベシケア」(アステラス製薬)と「デトルシトール」(ファイザー)が発売され形成された。現在トップブランドは「ベシケア」である。泌尿器疾患領域に注力しているアステラス製薬は前立腺肥大症治療剤でもトップブランドを擁し、その実績を活用して展開している。

2011年は、アステラス製薬から一部の既存製品にみられる口渇や残尿感などの副作用の軽減が期待される「ベタニス」が7月に製造承認を受け発売が予想されることから、市場は拡大すると予測される。また、「ウリトス」(杏林製薬)と「ステーブラ」(小野薬品工業)などから口腔内崩壊錠が追加された。口腔内崩壊錠は、口腔内で容易に崩壊し、口腔内の水分が少ない高齢患者でも飲みやすいことから、処方の増加に繋がるとみられる。

#### 腎疾患治療剤

市場は、透析治療やCKD(慢性腎臓病)などの腎疾患治療患者の増加を受け拡大を続けている。薬剤別にみると、透析液は薬価の引き下げなどにより実績が伸び悩んでいる。一方で、副作用が少ない製品への置き換えが進んでいる。腎疾患治療剤は、高リン血症治療剤「ホスレノール」(バイエル薬品)をはじめ、多くの製品が伸びている。今後も高K血症用剤や高リン血症治療剤など腎疾患治療剤を中心に市場は拡大すると予測される。

#### <全体市場総括分析結果の概要>

2010年	2018年予測	2010年比
7兆5,306億円	9兆1,966億円	122.1%

2010年に行った調査結果を合算したため、2010年は一部見込値を含み、市場予測は2018年までとしている。

国内の医療用医薬品市場は、医療費削減のための薬価の引き下げや、国主導によるジェネリック医薬品の普及が推進される中、高薬価の生物学的製剤や抗がん剤新薬の発売、インフルエンザの流行などを背景に緩やかに成長し、2010年に7兆5,306億円となった。市場の18%を占めるのが循環器官用剤である。2010年は4月に薬価が大幅に引き下げられたが、実績は拡大した。循環器官用剤に次ぐ規模で、市場の約10%を占めるのが感染症治療剤である。インフルエンザの流行による抗ウイルス剤やワクチン製剤の伸びが感染症治療剤の実績を押し上げた。感染症治療剤と同様に市場の約10%を占めるがん関連用剤では、がん患者の増加や、近年発売され薬価の高い分子標的治療剤が好調で、抗がん剤の実績が急拡大した。また、制吐剤も新たな成分や剤形の薬剤が発売され

実績が拡大した。

2018年の市場は、2010年比22.1%増の9兆1,966億円が予測される。依然、最大規模は循環器用剤であり、降圧剤の伸びが牽引し実績は拡大するが、市場における構成比は17%に減少する。対してがん関連用剤は、新薬の発売や疼痛管理等の緩和医療の普及が進んで拡大し、2018年には構成比が14%に増加する。その他、関節・骨疾患治療剤が骨粗鬆症や変形性関節症等の運動器障害関連疾患の増加や関節リウマチの適応を有する生物学的製剤の市場浸透により拡大し、構成比が増加する。

以上

< 調査対象 >

調査対象	
第1回調査	循環器用剤（降圧剤、各種梗塞治療剤・血栓溶解剤・血管拡張剤、心不全治療剤、不整脈治療剤、狭心症治療剤） 感染症治療剤（抗生物質、抗ウイルス剤、抗真菌剤、ワクチン製剤）
第2回調査	精神神経疾患治療剤（抗不安薬・睡眠導入剤、抗うつ剤、統合失調症治療剤、他の向精神薬（抗躁剤、精神刺激剤） 抗パーキンソン病剤、抗てんかん剤、片頭痛治療剤） 多発性硬化症治療剤、脳疾患治療剤（抗認知症剤、脳卒中急性期治療剤） 消化器用剤（上部消化管疾患治療剤、肝疾患治療剤、膵疾患治療剤、その他消化器用剤）
第3回調査	抗アレルギー剤、感覚器用剤（緑内障治療剤、その他眼疾患治療剤、点鼻剤・点耳剤、メニエール病治療剤） 皮膚疾患治療剤（外用抗菌剤、外用消炎剤・アトピー性皮膚炎治療剤、褥瘡治療剤、脱毛症治療剤） 呼吸器疾患治療剤（喘息治療剤、COPD治療剤、鎮咳・去痰・呼吸促進剤、消炎酵素・総合感冒剤、禁煙補助剤） 解毒剤
第4回調査	高脂血症治療剤、代謝系疾患治療剤（糖尿病治療剤、糖尿病合併症治療剤、痛風・高尿酸血症治療剤、抗肥満剤） 解熱消炎治療剤（NSAIDs・解熱鎮痛剤、ステロイド系消炎鎮痛剤） 血液関連薬剤（貧血治療剤、血液製剤・止血剤） 漢方製剤
第5回調査	がん関連用剤（抗がん剤、CSF、制吐剤、がん疼痛治療剤） 栄養補助剤（輸液製剤、経腸栄養剤、ビタミン剤） 麻酔・筋弛緩剤（麻酔用剤、筋弛緩剤） 免疫抑制剤、体内診断薬、消毒剤
第6回調査	関節・骨疾患治療剤（抗リウマチ剤、骨粗鬆症治療剤、変形性関節症治療剤、外用消炎鎮痛剤） 女性疾患治療剤（子宮筋腫・子宮内膜症治療剤、経口避妊薬、排卵障害治療剤、切迫早産治療剤・陣痛促進剤、更年期障害治療剤・月経障害治療剤） 泌尿器疾患治療剤（過活動膀胱・神経因性膀胱治療剤、前立腺肥大治療剤、性機能改善剤） 腎疾患治療剤、痔疾患治療剤、ヒト成長ホルモン剤

< 調査方法 >

富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング調査及び関連文献を併用

< 調査期間 >

2011年4月～7月

資料タイトル	「2011 医療用医薬品データブック No.6」
体裁	A4判 343頁
価格	160,000円（税込み168,000円）
調査・編集	富士経済 東京マーケティング本部 第二事業部 TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514
発行所	株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL03-3664-5811（代）FAX 03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : <a href="http://www.group.fuji-keizai.co.jp/">http://www.group.fuji-keizai.co.jp/</a> <a href="https://www.fuji-keizai.co.jp/">https://www.fuji-keizai.co.jp/</a>